

様式③

提出日 年 月 日

2020年度 琉球弧研究支援 報告書

研究テーマ「 八重山諸島の学童保育の教育方法—沖縄本島と比較して 」

氏名：久我はづき(代表)

所属学部学科：人文学部子ども文化学科

I. 初めに

コロナ禍ということもあり、なかなか研究が進まない時もありましたがさまざまな人の協力があり、充実した研究を行うことができました。その人たちに感謝して、発表をしたいと思えます。

II. 研究の目的、動機

研究の目的としては、沖縄県の子どもたちの現状を知る、ということです。学童を調べることを通して子どもたちの現状を研究しました。

研究の動機は、小学校以外の子どもたちの居場所を知りたいという興味からです。

III. 研究方法、地域、期間

研究方法は、同じ学部の学童で働いている友人に、アンケートをとりました。また、離島の学童は電話でアポを取り、アンケート用紙を郵送して送り、書いてもらってから送り返してもらうことで研究を進めました。本来ならば直接現地に出向いてインタビューをするのが1番だと思いますが、コロナ禍ということもあり、インタビューという形を取りました。普段とは違う研究方法だったので、苦勞することもありましたが、友人達、先生方の協力のおかげで研究を進めることができました。

地域としては南部の学童クラブと、石垣島の学童クラブを、対象にしました。理由としては、学童でバイトをしている友人のほとんどが南部の学童で働いていたということです。また、南部には、那覇をはじめとした、人口密度が高く、子どもが多い町や、市が多くあります。八重山の学童と比較するにあたり、やりやすいということ、問題を掴みやすいと考察し、南部の学童を対象地域としました。石垣島の学童を中心に調べたのは、ゼミの梶村先生と話していく中で、離島について興味を持ち、離島と沖縄県本島の子供への地域の支援のちがいに興味関心を持ちました。なので、石垣島の学童を中心に調べようという流れになったので、石垣島の学童を対象にしました。

また、大学の後期の期間を研究期間としました。前期の時間は、コロナの影響もあり、遠隔授業が中心となってしまい、ゼミの全員で話し合う期間がありませんでした。夏休みが明け、後期に入ると対面ができる状況になったため、本格的に研究を開始することができました。

IV. 結果

沖縄県の子育ての現状について

沖縄の総人口は、約 148 万 1539 人。その中における子どもの人口は約 33 万 2398 人。割合にすると 17.6 パーセント。全国的な子どもの割合は 13 パーセントなので、4.6 ポイントも高い子どもが多い県だといえます。また、片親世帯も全国的に見て多いということも調べてわかりました。そこで、沖縄県には、子どもの居場所が必要という結果に至り、その居場所を担っている学童を調べることとなりました。

そもそも学童とは？

保護者が労働などにより昼間家族いない小学校に就学している児童に対して授業の終了後に小学校の余裕教室、児童館などを利用して適切な遊び及び生活の場を与えて、その健全な育成を図る事業だそうです。また、開所日数や面積などにも定義があるらしく、開所日数が一年につき 250 日以上で、児童 1 人の面積が 1.6 平方メートル以上の面積が学童とされるそうです。また、学童を利用してしている子どもたちが大勢いる一方で、待機児童が年々増加していて、早急に待機児童を救済できるような策を考える必要があると思います。

那覇市の学童調査結果

児童数、30 人～80 人

月謝、 1 万円～

学年によって違うところもあり

土曜保育

調査した学童には全部あり

学童によるが人数は少ない

独自の取り組み

英語教室、餅つき大会、アイススケート、リーダー研修、料理教室、お誕生日会、クリスマスパーティー、親子遠足などなど

八重山の学童調査結果

児童数、10～40 人

月謝、 0 円～2 万 5000 円

土曜保育

調査したところには全部あり

人数は少なく、月に 1、2 回だけのところもあり

独自の取り組み

フリーマーケット、登山、海遊び、三線教室

V. 考察、分析

調査結果をうけて、八重山の学童を那覇市の学童に比べ小規模であることがわかりました。また、独自の取り組みに関して、石垣島の学童は地域の特色に合わせた行事や、地域の人たちとの交流が多い印象を受けました。那覇の学童には、比較的空きがなく受け入れを募集していない学童もある中、石垣島の学童は募集をしているところもあることを知りました。このことから沖縄本島の子どもの居場所には限界があるという考察に至りました。それに加えて、石垣島の学童には、支援員不足の問題が深刻になるのではないかと考えられます。石垣島は募集をかけられるくらいの空きがありますが、子どもたちの人数が増え那覇の学童のような状況になると厳しくなるのではないのでしょうか。以上が考察と分析です。

VI. 今後の展望

学童について興味を持ち、支援員についての知識を得ることができたので、進路選択の一つとして考えていきたいと思いました。

VII. 終わりに

今回、学童について調べてみて、学童の運営はとても大変だということを知りました。コロナ禍のため、マスクやアルコールなどの指導の徹底、おやつの際も衛生面にいつも以上に気をつけなければいけないため、支援員の責任がとても重いと思いました。保護者と良好な関係を保ち、預かる側として安心して保育することが求められる、共働きがおおい今のご時世とても必要な施設だと改めて思いました。

VIII. 参考文献、調査協力

沖縄の保育・子育て問題 浅井春夫 吉葉研司

早わかり子ども・子育て支援新制度 場所はどう変わるか 佐藤純子 今井豊彦

南部地域、石垣島の学童 (匿名)

IX. 指導教員コメント

コロナ禍で現地調査ができなかったために、思うようなまとめができなかったのは残念です。しかし問題意識がはっきりしていたので電話で必要なことが聞けたと思います。今後も引き続き研究を進めてくれることを期待しています。